

話題 其の14：ラマダンライブ① —ラマダンと消費—

ラマダンに突入して1週間、まだ交通事故は目撃していませんが、確実に運転が荒くなっている気がします。クラクションを聞く回数と音量でそう感じます。

さて、今回は第1回目のラマダン中継ですが、ラマダンに入る前から食品を扱う商売人の事が気になっていました。みなさん断食するわけですから当然食品販売業や食堂・レストラン業の人は収入が少なくなるはずですよ。そこで、小さなスーパーマーケットを経営（副業）する職場の友人にその所を聞いてみました。「私のスーパーは場所が良くないので売り上げはあまり変わらないけど、全体的には消費が活発になっていると思う。午後1時から4時頃に、ダウンタウンに行くとか解るけど、食品市場はごった返してるよ。我が家もそうだけど、多くの家庭で、日頃は夕食のおかずは2～3皿でも、ラマダン中は、ほぼ毎日10皿くらい並ぶんだ」（ホンマカイナ？）

—昨日、職場の女性スタッフ宅での夕食会に招待されました。夕食なのに4時半に集まって早速食事が始まりました。さすがに皆さんお腹が空いてたらしくて、凄い勢いで食が進みます。メニューはマンサフと言うナッツ入りの炒めご飯を信じられないほど山盛りにし、その上に鶏肉（普通は羊肉）をのせたメインデッシュ。これにヨーグルトのスープをかけて食べます。その他サラダが2種類とパン類など約8種類の料理がテーブルに並んでいました。食後は、紅茶とご主人の手作りお菓子、トルキッシュコーヒーと続けました。本当はラマダン2日目に招待されていたのですが、彼女のお姉さん家族の家でパーティがあったらしくて日程を変更したのです。

とすることで、料理は普段より贅沢に、そして親戚、友人宅に招待しあってほぼ毎日満腹の夕食を取っているという事でした。日本で言えばお正月の3ケ日が1ヶ月も続くという感じでしょうか。多分、ラマダン中は予想に反して、一年の内でも消費が伸びるでしょうね。

「貧しくて空腹に耐える人たちの苦しみをみんなで経験するラマダン。そして、神への感謝としてのザカート（喜捨）」というイスラムの戒律（？）も既に形式的な行事になっているようにさえ感じました。夕方まで待てばご馳走を思いっきり食べられるのですから。夕食を質素にしてザカートに回せば尊敬ものですね。さすがに、貧しい人の空腹は共有できても、その空腹がいつまで続くのか解らないという大きな不安まで共有するのは難しいですよ。

話題 其の14：—夕方の Break-Fast ？—

先ほど登場した彼女の招待は「我が家に Break-Fast を食べに来ませんか？」という事でした。その背景を、同じように体験した友人のホームページから紹介しましょう。（ちょっと拝借します）

『ラマダン中、現地の人から“Breakfast”に招待されることがあります。“まさか日の出前・・・？”と思われる方もいるかもしれませんが、実際にはこれは日没後、その日の断食を終えて最初にとる食事のことです。英和辞典をひけば一目瞭然ですが、“Fast”には断食をするという意味があるので、“Break-Fast”とは断食を終えて食事をとるという造語だったのです。おそらくヨーロッパ社会では、古来、夜は断食をするという概念があったのでしょう。日本人がイメージする“朝食”とは違って、“Breakfast”はより宗教的な儀式なのですね。(by I)』

<http://homepage.mac.com/shukran/sti/columnj.html> このホームページはヨルダン職業訓練技術学院にJICAの技術協力専門家として派遣されている日本人専門家の方たちが編集しています。興味深い記事が満載です。是非一度開いてみてください。
